

ふるさとを見つめて

変わり行くふるさと

このところ、われわれの故郷の道南地方で実にさまざまな出来事が続いている。昨年のペリー来航百五十周年しかり、続く道南地方の五市町村の合併による函館圏の拡大と人口増加で、待望の中核都市としての再生など、いずれも道南出身者として心強い限りである。しかも待望久しかった「北海道新幹線」着工が陽の目を見ることになり、大きな第一歩を踏み出すことになった。

新しい動き

明治維新以来、薩摩・長州を中心とする西南雄藩による東北地方への差別的な行政により、東北・北海道は貧しいままに置かれ、ことに北海道は石炭、木材、農水産物など明治資本主義の原料供給地として遇されるだけであった。中央政府は札幌に拠点を置き、開拓行政を展開してきたが、国際貿易港として、また北洋漁業基地として独自の発展を遂げてきた道南地方は札幌中心の開拓行政から冷遇

田 沼 修 二

され続けてきた。ことに戦後の北洋漁業喪失による不況、航空旅行の普及による連絡船の廃止など道南経済の地盤沈下は、戦前の繁栄に比べ目を覆うものがあつた。

しかし此処にきて状況の好転が期待できるようになってきた。中核都市として市政の自由度が拡大され、函館圏の拡大による漁業水揚げ高の増加と加工産業の振興などへの期待は大きい。一方類いまれな景観と独自の歴史を基盤とする観光産業にもさらなる期待を寄せることができる。国内観光旅行者はもとより、海外からの観光客は年々増え続けているという。まことに喜ばしい限りである。更に十年後に新幹線の北海道乗り入れが実現すればと夢は膨らむばかりである。

観光と産業

最近の経済の動向は重化学工業中心の高度経済成長期と面変わりして、ソフト傾斜型となり、人々の生き方もリゾートやレジャーに向かっている。当然のことながら観光産業は更に発展することは間

違いな
いよう
に見え
る。

ある
調査に
よると

観光旅
行者の
支払う
費用の
うち、

お土産
代が全支出の二十五%を占めるとい
う。



五稜郭タワー

この傾向を先取りした道央や道東地方で開発されたアイディア溢れる菓子類は、北海道の新しい味として、毎年のように工夫を凝らし観光客にアピールしている。道南もまた素晴らしい景観に組み合わせた魅力溢れる海産物等を加工した土産品の開発に成功すれば、新しい有力な産業となることは間違いない。

見つめ直す動き

ふるさとを見つめる道南出身者の間でも新しい動きが始まっている。もともと弥生小学校はじめ、常盤、幸、青柳、宝、などの卒業生で首都圏での同窓会が相次いで開かれ、それぞれ百名近い同窓生がふるさとの思い出と小学校時代の昔話に華を咲かせている。つながりの深い旧友と改めてふるさとを見つめ直しているの

である。
新しい視点で見つめる

道南会としてもこのような傾向を全面的に応援し、衆知を集めふるさとへの役立つ提言をして行きたいと思う。道南会は明年一月、創立四十五周年を迎える。これを好機にふるさとに貢献する事業を展開したいと考え、第一段として来年春に新しい函館圏を巡回する「ふるさと訪問旅行」を企画しており多数会員の参加を期待している。最近の道南の実情を体験し、ふるさとへの認識を深め、これからの道南会の課題に取り組もうとするものである。とりあえず訪問旅行によつてさまざまな体験からふるさとを見つめる機会としたい。



道南四季の杜公園

函館市の近況

一 北海道新幹線

北海道新幹線の起工式が五月二十二日に新函館駅予定地（現渡島大野駅）で行われました。

今後は、二〇一五年までの開業に向けて（二年位早まる可能性あり）地元説明会、測量、用地買収などを経て工事を進めていくこととなります。

完成後は、東京・新函館間が約三時間四十分で結ばれる予定ですので、是非、北海道新幹線で郷土函館を訪れていただきたいものです。

二 新規オープン施設

① 道南四季の杜公園

北海道が亀田中野町（公立はこだて未

来大学の隣接地）で整備していた総面積約六十五ヘクタール、市内最大の公園となる道南四季の杜公園が四月一日、全面オープンしました。

ツツジなどの花畑が広がる「花の丘ゾーン」、ススキなどが自生する野原や大型遊具で遊べる「野原の丘ゾーン」、自生しているキタコブシやカツラなどの森林に自然散策のための管理道路や広場、あずまやなどの休憩施設を設けた「里の森ゾーン」、近くの小川から水を引き、稲作を体験できる水田や自生していた湿生植物を集めた「小川の里ゾーン」で構成されています。

② 「クイーンズポルトはこだて」

T型フォードやムスタングなどのクラシックカーを展示するクラシックカーミュージアム、ラジコンカーサーキット、ラジオ・テレビの生放送で函館の情報を発信するサテライトスタジオ、函館山や海を見晴らすフードテラスなどのほか青函連絡船記念館摩周丸と連動した三階建ての複合施設「クイーンズポルトはこだて」が四月十六日、若松町にオープンしました。

③ 「朝市どんぶり横丁」

JR函館駅西口前の函館朝市に海鮮丼や函館塩ラーメンなどの飲食店、土産物店など、十八店舗が入居する「函館朝市どんぶり横丁市場」が四月二十五日、オープンしました。



④ 「湯の川温泉らーめんブリギ」

街頭テレビや日活映画スターの看板など、昭和二十一年、三十年代の下町をイメージした街並みに市内や近郊の五つのラーメン店が軒を連ねる「函館湯の川温泉らーめんブリギ」が六月四日、湯の川観光ホテル一階にオープンしました。



三 箱館奉行所の復元

一八六四年（元治元年）に建設され、明治維新後の七十二年に解体された箱館奉行所の復元に平成十八年度から着手し、平成二十二年度の完成を予定しています。木造一部二階建て延べ約三〇〇〇平方

メートルあったとされる庁舎建物のうち、玄関や表座敷、太鼓やぐらなど、主要な部分の約一〇〇〇平方メートルを江戸末期の原形のまま復元し、併せて展示も工夫し、文化財の学習・観光施設として充実させることとしています。

このほか前号でお知らせしました国際水産・海洋都市構想や海の生態科学館構想（仮称）ひかりの屋台（大門横丁に名称決定、平成十七年十一月オープン予定、中央図書館の建設（平成十七年十二月オープン予定）、五稜郭タワーの建替え（平成十八年四月オープン予定）なども、順調に進んでいます。



「お墓の前では泣かないで」

田沼 修二

あなたを見守る

昨年十一月末、二上さんの出版記念会で相席となった相馬先生は心なしか疲れしているようだったが、それからあまり日を置かず冥界に旅立られてしまった。

相馬先生は筆まめな方で真面目な、時にユーモアに満ちた文章を道南会報に寄稿されていた。私の手元に残された短文は先生の旅立ちを予感させるもので皆様にご紹介させて頂く。

「あとに残された人に」

だれが作ったのかわからない一篇の短い詩が欧米や日本で静かに広まっている。最近この詩を作家の新井満さんが訳して曲をつけて配っているようだ。

「私のお墓の前で泣かないで下さい
そこに私はいません」

眠ってなんかいません
千の風になって あの大らかな空を
吹きわたっています

「秋には光になって
畑に降りそそぐ
冬にはダイヤのように
きらめく雪になる」

朝は鳥になって
あなたを目覚めさせる
夜は星になって

作者をめぐっては諸説があるが、アメリカでは三年前の九月十一日、前年の同時多発テロで亡くなった父親を偲んで十一歳の少女が朗読したし、古くはマリリンモンローの二十五回忌にも朗読された

というから、米国人に大きな感動を呼んだ詩であろうと想像はつく。

しかし英語圏の人たちが感動するのは、内容はもちろん文節の韻と結びついて心に訴えるので、上手に訳したからと言って、その心がそのまま日本人に伝わるものではないように思われる。

そこで私が新井氏の訳文を頼りに日本語の詩として、少し軽快なりズムをもつように手を加えてみた。

「お墓の前では泣かないで
そこにわたしは いないのよ
眠っているわけじゃないのよ
風になって大空を
吹き回っているのです」

「秋には光となって
畑一杯に注ぎ
冬にはダイヤのように
雪となつてきらめく

朝は鳥になって
あなたを目覚めさせ
夜は星になって

あなたを見守りたい
この訳文の推敲は後にするとして、せ

めて私も「私が死んだときに開封してください」と、素晴らしい「わかれ」の詩を残し、孫に託して会葬者に披露したいものだと思っている。

亡くなる半年ほど前に相馬先生は自分の旅立ちの日の近いことを悟って、この短文を書かれたに違いないと思われる。あの一見飄々とした先生の、内に秘めたしたたかな心意気を今更のように偲ばれるのである。

謹んでご冥福をお祈りする。



左から相馬正樹、二上達也、田沼会長（出版記念会にて）

相馬正樹先生とブルガリアの桜

川守田孝平

一九八〇年頃、東海大学海洋学部でブルガリアから派遣された、四人の研究者を相馬先生が指導されたのが縁で、先生とブルガリアの交流が始まりました。

九四年、ブルガリアの首府ソフィアに、東海大学同窓会ブルガリア支部が作られ、その発会式に招かれた先生は、挨拶の中で「日本とブルガリアの国際親善の記念に日本の桜の苗木を寄贈したい」と述べ、松前桜の苗木を五十本ずつ、ソフィアとバルナに送りました。しばらく現地の苗床で育てられた苗木は、まず黒海を望むバルナの海洋公園に植えられることになり、その植樹祭に参加するため、先生を団長に、道南会の会員十二名がバルナに向かいました。

九九年四月十二日、モスクワ経由でソフィア空港に到着した一行は、ロビーに大勢出迎えた先生の教え子や知人の方々の暖かい歓迎を受け、感激も一入でした。国内便に乗り継いでバルナに向かった我々はここでも盛大な出迎えを受け、同窓会の皆様と先生ご夫妻の嬉しい対面に感動を覚えました。

翌日、植樹祭が行われる海洋公園に行くこと、既に準備が整っており、掘られていた穴に苗木を入れ、バルナ市長、相馬先生他の皆様次々と土を盛りました。

横の広場では、美しい民族衣装を身に

着けた地元の少年少女がフォークダンスを披露し、我々もその輪の中に入って、和やかな交流が行われました。

二度目の植樹祭は、〇一年九月、あいにく出発の少し前にアメリカでのテロ事件が起こったため、参加者の取り消しが相次ぎ、総勢七人の寂しいツアーでしたが、バルナ市役所正面の庭に苗を植えて来ました。

二年前に植えた苗木は立派に成長し、公園の桜並木通りは「相馬の小道」と名付けられて、花が咲く春を待ちかねているようでした。

三度目の旅行は、〇四年九月、先生の提案で、今までに植えた桜が咲き誇つ



ている美しい姿との対面と、桜の樹の下でブルガリアの人たちと一緒に花見の宴を開き、国際交流の輪を広げようということが目的でした。

絶好の花見日和の日、国立図書館前広場に植えた桜は、見事な花を咲かせて我々を迎えてくれました。広場には、同窓会の方々によって宴の準備が万端整い、ソフィア放送少年少女合唱団の「サクラ」の歌声が流れる異国の空の下での「花見の宴」の幕が開かれました。

パーティには、二百人近い人たちが参加。それぞれグラスを手にして、身振り手振りを交えながら親しく話し合い、和やかな国際交流が繰り広げられました。

日本の桜が結ぶ縁で生まれた、道南会とブルガリアの人たちとの盛大な花見の会は、相馬先生のお力無くしては実現しえなかつたことだと思えます。先生は、「ソフィアで開かれたこの花見の会が毎年続けられることを願う」と言われておりましたが、それも叶わず、遠くへ旅立たれてしまいました。

三度もブルガリアの旅にお供した私ですが、その都度地元の方々との交流を広げることができましたのも先生あつてのことでした。何時の日か、再度ブルガリアでの花見の会を開くことができれば、先生への恩返しになるのではないかと思っています。

道南会創立四十五周年記念行事

道南会は、平成十八年に創立四十五周年を迎えるに当たり、どのような記念行事を行うか具体策を検討しております。行事内容については、もちろん会員諸氏のご提案をいただいで最終的に決定いたしますが、現在までに恒例の行事については別掲の案が固まっております。

まず、十八年の新年総会を、創立四十五周年記念祝賀会として盛大にお祝いします。この際、創立以来の四十五周年に会の活動に貢献された方々の功績を讃えて感謝の意を表したいと考えております。また、道南地方のふるさと会の代表をお招きして相互連帯を強めることを実行したいと考えております。

記念行事として「ふるさと訪問旅行」

道南会創立四十五周年記念行事(案)

- 一、記念式典を兼ねた新年総会
平成十八年一月二十一日(土)
プレスセンタービル十階ホール
- 二、ふるさと訪問旅行
平成十八年六月四日(日) 〆
六日(火)(予定)
函館近郊(大沼等) 散策と記念植樹
- 三、四十五周年記念誌の発行
道南会行事回顧写真集
- 四、協賛広告並びに名刺広告の募集

を実施する予定でありますが、できるだけ多くの方々にご参加いただくため、経費を抑えるように交渉したいと考えております。なお、旅行時に行う記念植樹につきましては、植樹場所、樹木の種類などにつきまして各位のご意見を頂戴したいと考えております。

四十五周年記念誌を発行いたしますが、記念誌への各位の投稿を歓迎します。また、写真なども多用して印象の強いものをご考えておりますので、写真を借用いただければ幸いです。記念誌の刊行は編集の関係で、十八年夏を予定しております。

関係行事の実施については、いずれも予算が伴いますので、記念誌や会報に名刺広告や関係企業の広告等を積極的に募集したいと考えております。

この他、斬新なご提案をお待ちしておりますので、ぜひお寄せ下さい。

(沼崎貞良記)



『会員プロフィール』

平成十五年の新年号の会報に初めて「会員プロフィール」を掲載しました。この時には、十二名の会員からご自分の生い立ち、経歴、お仕事、趣味やご家族のことなどを紹介して戴き、会員相互の理解と親善に大変役立つております。

以後平成十五年夏季号では五十二名、更に十六年の新年号で二十九名、十六年夏季号四十三名、十七年新年号二十八名の会員から原稿を戴きました。今回は二十七名の会員から原稿を寄せて戴き、通算で一九一名の会員をご紹介しましたが、今後とも一人でも多くの会員に登場して戴きたく宜しくお願いいたします。(原稿は二百字程度。内容自由)

一戸 侑子 昭和四年函館生まれ。柏野小学校、庁立函館高女卒業後、母校の教員として八年間勤務。教え子の卒業と同時に退職。当時、ライオン油脂勤務の夫と結婚。夫の東京本社への転勤のため上京。世田谷の住人となる。

一昨年、長年連れ添った夫と金婚式を迎えられたことが生涯の喜びです。

現在は、和太鼓(十七年)、合唱、ボーリングなどを趣味として楽しむかたわら、毎年、柏野小学校同期会で友人と昔の良き時代を語り、また、私の宝物の教え子が毎年開催してくれるクラス会で、教え子たちの元気な顔を見るのが何よりの楽しみです。

内田みつる 太平洋戦争直後に樺太で生まれる。幼少からは五稜郭公園のまん前で育ち、白百合学園卒業後、米国ボストンに一年滞在、フィリピンへ引越しま

ニラ下町のイースト大卒業。さらに、ワシントンDCへと国際引越しを重ね帰国。函館に戻り、建設中の函館国際ホテル初代社長佐藤清定氏の秘書として社会人をスタート。東京で結婚し離婚。

その後、ロシア語、英語を主言語とする会社を設立。年五、六回の海外出張という仕事をしているうちに、あつという間に十五年が過ぎた。娘二十六歳、独身、音楽家。私〇〇歳、独身、鬼婆化? 温泉旅行と合気道、料理が趣味。松前様の紹介で道南会に入会。楽しい毎日を過ごし中。

金柿陽子 昭和十六年生まれ。戦後、いまだ物のない時代に柏野小学校に入学。的場中学校、東高等学校を卒業後、函館市交通局に入局。その後、上京。旧丸ビル内の「特許事務所」に勤務。結婚。

趣味は、生け花、囲碁、ゴルフなど。毎年、夏には、函館で過ごすことが我が家の楽しみとなっております。

故郷・函館が、「もつと活力を取り戻して欲しい」と、力んでいる一人です。

昨年から道南会に入会致しました。この会を通じて楽しい仲間が増え、交流の輪が広がって行くことを願ってやみません。

木村友子 函館市湯の川に生まれ、芸芸大学附属函館小・中を卒業。白百合学園高等学校、白百合女子大と進み、昭和四十六年、縁あつて群馬県水上温泉の「水上館」に嫁ぐ。同館女将二十余年を経て現在に至る。今生天皇・皇后両陛下の二度にわたる来館の栄を賜る。

今年四月、娘を嫁がせ、息子は航空自衛隊戦闘パイロットとして機上訓練中。

函館に里帰りすると、山の中に嫁いだことを後悔するときもあつたが、水上は四季折々美しい町であり、今は水上が大好きである。

道南会の皆様もぜひ水上温泉へお出かけ下さい。

後藤健三 一九三〇年生まれ。上磯郡木古内町鶴岡尋常小学校卒業。祖父母の時代に、山形県の庄内藩からの集団移住民としてオカミからの援助を受けて北海道に渡ってきたそうです。しかし、孫(三代目)の三男坊には田畑の割当分が乏し

く、高等小学校卒業と同時に、国鉄(ポツボヤさん)で、社会の幕開けとなりました。函館に転勤になり、初めて大都会に顔を出しましたが、色々と不便を感じ、函館商業定時制に入学。

函商を卒業すると同時に、東京に高飛びし、自分で始めた業務に四十年間精勤?し、この三月で後身にすべてを譲り、現在七十五歳の失業を満喫しております。

道南会には、阿部さんの時代に入会させていただきました。これからはもつと真面目にいろんな行事に参加させていただきます。

佐藤美美子 昭和十六年十月、東京・蒲田生まれ。親の仕事の関係で故郷の北海道に帰り、青柳小学校、汐見中学校を卒業。函館商業高校卒業後、資生堂入社。三十八年に結婚と同時に退社。

その後は、主人の定年まで、住まいが、室蘭、山形、いわき、宇治、広島、旭川、山形、東京と、転勤の連続でした。子ども(一男一女)も社会人となり、ただいまは、ガーデニングと旅行を楽しんでいます。

主人は、第二の人生で、まだ仕事に励んでおりますが、夫婦二人でゆつくりと海外旅行をすることが夢です。

鈴木克也 一九四二年、大阪で生まれる。大阪市立大学卒業後、六十五年野村

総合研究所に入り、マーケティングや経営戦略関連のリサーチとコンサルティングを行う。七十三年、同グループのジャフコというベンチャーキャピタルに転籍。審査部などで多くの起業家と接触、ベンチャー企業に興味を持つ。二〇〇〇年より公立はこだて未来大学教授。「ベンチャーを軸とした地域おこし」をテーマに、函館地域の応援団として活躍。

住まいは鎌倉なので、函館と鎌倉間を行ったり来たりしています。趣味は、囲碁。

高松和貴子（女優・叶 和貴子）昭和三十一年、本町生まれ。千代田小学校から深堀中学校へ進学。深堀中時代は、八十メートルハードルで道南一位の夢が叶う。遺愛女子高を経て、桐朋短期大学ピアノ科卒業。ピアノ教師の後、歌手のバックコーラスを務める。

昭和五十五年、「源氏物語」で、女優としてデビュー。芸能界の荒波に、道産子根性が役立つ。現在は、コメンテーターの仕事が中心。愛犬ポロ（ヨークシャーテリア）に癒されています。

多田 勲 昭和十七年、木古内町景勝寺の六男坊（十一人兄弟）として生まれる。木古内高卒業後、数校受験したが、志望校に届かず、滑り止めの芝浦工大電気工学科に入学。エンジニアを目指したが、どういふわけか建設業の電気工事関

係（銀座・三菱系列の弘電社）に入社。二十五年余りサラリーマン生活を送っていました。

平成元年四十六歳で脱サラ。三年間修行し、平成四年独立。電気工事関係全般（設計・施工・管理等）を扱う㈱多田エンタープライズを設立。現在に至る。

平成六年十一月、東京木古内会設立準備委員会（発起人十六人）が発足、翌七年六月十七日に設立総会が開かれ、初代会長に指名され現在に至っています。

「北海道ふるさと連合会」（平成十五年脱会）、「道南会」と色々とお世話になつておりますが、なかなか思うようにはいかず、皆様にはご迷惑をおかけしております。紙上を借りてお詫び申し上げます。

家族は、女房と二人で、公私共々忙しい毎日を送っています。子どもは娘が一人（既婚、男の子一人）で近所に住んでいます。趣味は、広く浅く多彩ですが、今は友人夫婦と旅行、ゴルフなどを年に何回か行つのが一番の楽しみです。皆様とも、ゴルフなど、同じ楽しみがあれば是非参加したいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

田楨諒子 昭和三年、栗山町に生まれる。父の転勤に伴い、函館へ。千代ヶ岱小学校を経て庁立高女に入学。高女在学中に肺結核を患う。昭和二十年の卒業と同時に療養を兼ねて山形に疎開する。結

核の快復後に結婚。結婚十年後に、二児を残し、主人病没す。

その後、東京へ移り、昭和三十六年より、六十一歳まで明治神宮職員として明治記念館に勤務。記念館を退職後、五年間上野動物園のシルバーボランティア活動に参画。

現在は、地域の短歌教室に通うと共に、美術館巡り、小旅行などを楽しむ日々を過ごしています。

田村保子 昭和十年、函館市上新川で、兄弟九人の三番目・長女として生まれる。松風小、同中学校、中部高校を卒業。その後、家事手伝いをしていたが、二十二歳時に、函館出身で横浜在住の公務員の主人と結婚。以来、娘二人に恵まれる。

現在は、横浜市港北区の東急線日吉駅近くに居住しております。六十五歳を期に、地域との交流を深め、老後の人生を豊かにと考え、老人会に入会。以後、老人会の早朝歩き会、近くの公園の清掃、大正琴、手芸、体操、月一回の地元及びその付近の歴史・文化散策、季節ごとの花・植物園の見学などに参加しています。他には、旅行、クラシック、ラテン、タンゴなど、多チャンネルのコンサートなどの鑑賞。さらに、多年にわたる二組の友人夫妻とのカラオケ、旅行などの交流を深め、人生を楽しんでおります。

千葉純子（ちば じゅんこ）（東京小樽会理事）田沼会長と同じ大正末に新潟県新発田市で生まれる。父の仕事の関係で北海道に転居。小樽で結婚。亡父の仕事の関係で、札幌、根室、釧路と移り住む。子どもたちが東京に進学・就職したので、

亡父を札幌に、私だけが上京して、現在の三鷹市に昭和四十六年より在住して現在に至る。

趣味は、邦楽、踊り。三鷹市文化祭の開催時には、毎年踊りの部で出演している。

塚本 毅 昭和二十二年、函館市松風町に生まれる。松風小学校・新川中学校・函南卒業後、千葉の私立大学へと進みました。中学生のとき、大森海岸でよく遊んだのを覚えております。父は一番通りで小さな洋食屋をやっており、よく皿洗いをさせられました。

現在は、帝国ホテルで総支配人として勤めておりますが、職業柄、なかなか帰省できず、いつも故郷を懐かしく思っております。

時田敦子 函館市豊川町の祖父の代からの海産物商に生まれる。龍谷幼稚園から成人に至るまで、日魯漁業の最上階のホールへ何かとよく足を運んだ。同期の徳田君のお姉さんの嫁ぎ先まで追っかけてピアノのレッスンを受ける。夕暮れ時、

二十間坂を降りて家に着くころ、ラジオから笛吹童子のテーマが流れている時代であった。

東京で、二十九歳の時に会社を設立。同時に、(株)東京青年会議所、日本橋倶楽部、ロータリークラブ他、諸会合へ入会。会合を満喫しよく遊んだ。

五年前に母を亡くし、六十歳で会社も縮小。その後、毎月帰函。小学校の恩師宇野(旧姓・川崎)先生に時折お目にかかる。母が庭に残してくれた花々を東本願寺のお墓へ。母も生前続けたように荷札へ屋号を記し、それを花へつけて昔からお墓参りの数も多い。

幼いころ立待岬で泳ぎ、今はジムへ。裏千家より「宗敦」の茶名。観世巢夫師事「羽衣」シテ演能。

橋本寛治 昭和三年、豊川町生まれ。中学卒業まで、函館の台所、魚市場で過ごす。小学校は、二年まで宝小学校。その後、新設の東川小学校へ移る。中学四年の卒業後、四月月間、船舶特攻隊の訓練を受ける。戦後、道内で遊学。昭和二十六年、在京の繊維会社に入社。以来、出版社、LPガス会社に七十一歳まで勤務。今日に至る。

趣味は、取り立ててないが、数年前から在京の竹馬の友より俳句の手解きを受けている。他に妻との旅行、一年程前からストレッチによる健康保持など。

家族は、妻と男子二人。孫はなし。この四月に喜寿を迎えた。

土井眞一 一九五〇年、旭町に生まれる。

大森小学校に入学したが、六年生の時に、父の仕事の関係で、横浜に引っ越す。中学三年の夏に函館に戻り、旭中学校に編入入学する。高校は、函館大谷高校の男子部一期生として入学。高校時代はハンドボールに熱中し、全国大会出場を目指して頑張ったが、いつも決勝で東高校に敗れて、夢は叶いませんでした。高校卒業後は、大学に進学し、現在は、梱包機・新聞発送設備を製造するメーカーの二チロ工業(株)に勤務しています。

飛内好郎(とびない よしろう) 昭和八年、函館市船見町に生まれる。その後、

新川町に移住。高盛小学校、函館中学に進学するが、学区制度の改革により、函館東高校に移籍。同高校卒業後、弘前大学に進学し、四年間津軽で生活。昭和三十一年、親の仕事の関係で、東京都文京区向丘(本郷)に所在する株式会社フラインホーム(通産省認定、割賦販売業)に入社し、関連会社六社の役職に就きながら、平成十一年まで四十四年間勤務した。

趣味は、現代文学、将棋、囲碁、園芸など。北海道詩人協会会員。現在、八王子市在住。なお、道南会には、一昨年、友人の三田

英彬氏の紹介で入会したが、三田氏が急逝したことから、道南会に籍を置いても皆さんとの歓談は無理と判断し、これを退会のあいさつとした。

南川貞治(ながわ ていじ) 我が函館には次姉が健在で、時々帰っています。

若いときに女子商業(現商業高校)、白百合、七飯中、湯川中と教鞭をとり、上京して再び進学。修了後、国立音大の専任として勤めるかたわら、武蔵野美大、専修大、最後は立正大の講師としてそれぞれ勤務し、三年前に半世紀を越える教師生活を終えました。

この間、ミュージカルの分野ともかかわっていたので、「屋根の上のバイオリン弾き」「ジーザス・クライスト・スーパースター」などを翻訳できたのも懐かしい思い出です。

教え子たちとは、今でも交流が続ぎ、函館との縁もいよいよ熟して参りました。目下、中高年者の仲間とシャンソンを楽しんでいきます。これもかつて函館放送合唱団に所属していたお陰です。学芸大学附属小、函商出身。

野崎弥寿子 一九三七年、函館生まれ。

大森町、湯の川で、呉服商「岩船」の次女として育つ。二十二歳で東京へ。麻布、世田谷、そして葉山へと参りました。一人息子も結婚し、近くにおります。二

歳半の孫(女の子)の顔を見るのが楽しみな夫婦二人暮らしです。

ジャズボーカルでライヴなどをしておりましたが、今はシャンソンをプリンスホテルでディナーショーやライヴを行うほか、年一回、葉山文化会館でリサイタルを行っております。

道南会へはあまり出席できませんが、今後ともよろしく。

比嘉裕子 昭和十八年、山背泊町(現入舟町)に生まれる。

常盤小、船見中、大妻高校を卒業し、函館ドックに入社する。

結婚。夫の転勤で、昭和四十三年に上京。以来、およそ四十年の東京生活。

平成三年、函館市東京事務所勤務。同郷の皆様との出会いと交流が始まりました。道南会会員の方々とお話をする度に、函館の懐かしい空の色、土の匂いが一層身近に感じられ、嬉しく思います。

週に一度の水泳教室と絵画教室で心身の栄養補給に心がけています。

長男が独立し、現在は娘と暮らしております。他にシーズー犬、オカメインコ、カナリアと同居中。

堀内洋子 終戦の年、疎開先の大沼で生まれる。後に市内地蔵町に転居。東川小、旭中、西高を経て、三菱銀行函館支店に勤務。四年後、立命館大学文学部(史

学科東洋史学 入学。朝鮮近代史を研究。

卒業後、日専連大井専門店会へ就職。結婚後、男子二人を出産するも、三年前に次男が逝去。その哀しみを乗り越えるために、外の世界に踏み出す。

現在は、東川小と西高の同窓会で、運営のお手伝いをしながら、人の情けとパワーをいただいております。

趣味は、ラグビー観戦、読書、パズルのほか、神社・仏閣・仏像の拝観。

本間和吉 昭和二十二年、函館市時任町生まれ。いわゆる団塊の世代で、千代ヶ岱小では二部学級(教室を二クラスで使用)を経験しました。亀田町に転居後は万年橋小、大川中を卒業。函工卒業後に上京しました。雪印本社に八年間勤務後、現NJK(東証二部)に転職。コンピュータ業界の揺籃期から幸いにも参画でき、かつ会社も東証に上場できました。

現在も在職し、現役で頑張っております。最近の趣味は、関東・甲信越を中心に、日帰り温泉巡りをしております。特に露天風呂にこだわり、もうすぐ三百湯入湯達成予定です。

これからも温泉の活力をいただきながら健康を維持し、団塊の世代の一員として、道南会に参加して故郷・函館との繋がりを大事に頑張りたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

松村 茂 昭和二十六年、函館市北浜町に生まれる。万年橋小、大川中、有斗高校を卒業し、東京へ出て、拓殖大学商学部貿易学科を卒業。拓殖大学在学中に、カナダ・バンクーバーシティカレッジに留学。

現在は、生保、損保保険代理業に従事しながら経営コンサルタント業を営む。なお、後輩の春日野部屋・栃乃洋関の後援会も主宰しております。

現在も、妹と母が函館市昭和町に住んでおり、時々函館に帰っています。函館に帰ったときには、万年橋小の卒業生と歓談しておりますが、いつも女性の参加者が圧倒的に多く、函館出身の女性は自立心が強いと感じております。

村上光昭 一九四三年、江差町に生まれる。江差小・中・高と、十八歳まで江差で育ちました。

その後、中央大学に進学。相撲部に入る。大学卒業後に、大相撲の世界にも入ってみましたが弱く、三年で断念。現在の仕事・総合解体業を始めました。

趣味は、もちろん相撲。後は、ゴルフと美味しいものを食べることにくらいです。相撲は、江差の町に道場を。ゴルフは小金井カントリー倶楽部に入ることができました。美味しいものについては八重洲

にお店を出して、北は北海道、南は九州から美味しいものを取り寄せて楽しんで

おります。

室谷國男 大正九年元町生まれ。弥生尋常高等小学校に通学。昭和八年函館中学校(白楊ヶ丘)に入学し、十三年まで在学。その後、東京に出て、無線技術を学び、無線機製造会社に入社。電波探知機を製造していたが、昭和二十年四月、京浜地区の空爆で会社が焼失。終戦後解散となり、函館に戻る。三〇四年自営業を行つたあと、国鉄に入社。無線・有線を担当する。その間、長万部に二度の転勤はあるが、函館電気区を最後に昭和五十一年退職。国鉄を退職後、当千葉に住む娘と同居する平成三年までゲーム機を扱う会社で管理と修理に携わる。

千葉に来てもう十四年。その間、読み方は同じでも字(邦雄氏)が違う先輩のいる道南会に三回程参加させていただきましたが、ここ三年程は体調がすぐれず無沙汰しております。

趣味は、音楽。主としてクラシックですが、当地に来て、老人クラブの関係でカラオケもかじるようになりました。他には旅行で、旅先での景色写真の撮影に夢中になっていましたが、現在はやむなく中止しています。

山形夕佳(歌手・うぐみ) 戸井生まれ。砂原おがり(育ち)。小一から函館。子どもころからの夢は、「歌手になること」。

しかし、当時は、ぼつちやりというより、でつぶり。そして、浅黒い容姿から誰も女の子だとは気付かないほどのたくまし

さだったため、断念。中学校からはバスケットに励み、やせる。

大学は自立を目指し、大阪へ。練習中の怪我で大きな挫折を味わうものの、多くの出会いとチャンスに恵まれ、気がつけば再び子どもころからの夢を追う日々。ライブ、コンサート、ミュージカル、音楽療法、CMソングなど幅広い音楽活動を行つている。函館観光大使。

山名昭二 昭和初期、亀田町で誕生。函館の大火の年に松風小学校、旧市中の二回生。在学中に予科練に入隊し、特攻志願。無事復員後、故郷釜石で五年間酪農生活。昭和二十六年に神奈川県警察に就職。三十四年に警視庁へ出向。警察生活通算三十五年。昭和六十一年に定年退職後、行政書士、賞状書士の資格を取得。現在に至っております。

三年前に動脈閉塞症にて右脚のバイパス手術をしましたが、お蔭様で元気です。昨年喜寿を迎えましたが、賞状の毫筆を趣味として生活しております。年四、五回帰郷し、同期と親交を深めています。

道南会には、同期の中村隆俊氏のご紹介で入会。皆様との歓談が楽しみです。今年の春には、叙勲受賞し、光栄の至りです。ますます元気で頑張ります。

道南会には、同期の中村隆俊氏のご紹介で入会。皆様との歓談が楽しみです。今年の春には、叙勲受賞し、光栄の至りです。ますます元気で頑張ります。

平成十七年新年総会・懇親会

総会は定刻一時、福田裕子幹事の司会により始まった。

はじめに、田沼修二会長より挨拶。本日は、一三〇名からならんとする参加者があり、函館市井上市長をはじめとして多数のご来賓の方々の出席に感謝。道南会にとつて今年は大変貴重な年である。昭和三十五年の発足以来、今年で節目の四十五周年を迎える。松前会に次いで古い「ふるさと会」である。四十五周年記念の色々な企画を考えて行きたいと思っている。函館市にとつても重要な年である。

昨年十二月の合併により、三〇万人を超える新函館市が誕生。また、北海道新幹線の新函館までの工事が確定し、益々の発展が期待される。当会においては、先達者の高齢化に伴い交代し新しい会員が増えている。昨年は、当会の発展に大変ご尽力をいただいた、早坂氏、相馬氏等の計報に接し、誠に残念でなりません。今後とも、会の益々の発展のために微力ではありますが頑張つて行きますので、皆様の変わらぬご支援とご協力をよろしくお願ひします。本日は、ごゆっくりとご歓談ください。日頃は、東京事務所の皆さんに多大なご協力を受けている事に感謝と御礼の挨拶をする。

次に、来賓の方々よりの祝辞をいただく。初めに函館市井上市長よりの祝辞。市長から、本日の盛会をお祝いし、お招きいただいたことへの御礼を述べる。その後、函館市の現況について、①昨年は、ペリー来航一五〇周年の年であり、それにかかわる色々なイベントを展開した。②NHKの大河ドラマ「新撰組」の放映にあたり、土方歳三のゆかりの地函館市のPRをNHKに働きかけたが、このドラマは主役が「近藤勇」であるため、願ひはかなわなかったが、後で、特別番組をやってくれた。観光客が多く、喜んで

いる。③近隣町村との合併。昨年十二月に戸井村、恵山町、椴法華村、南茅部町と合併し、人口三〇一、〇〇〇人の新函館市が誕生した。合併の四町村は水産の町で、特に戸井のマグロは最高で今では、大間のマグロより評価が高く、日本で最高のマグロと言われているが、これから

は、函館のマグロと呼ばれる。南茅部の昆布も日本で最高の昆布と呼ばれるようになる。これも、函館の昆布と呼ばれるようになる。水産物の水揚げ高は、北海道で一、二番、全国でも五番以内に入る水産都市となる。合併は北海道では一番目であり、道内はもとより、全国から注目されている。④北海道新幹線の誘致については、三十一年間要望を続け、活動を展

開して来た。最近まで各方面に陳情を行つてきた結果、昨年十二月、青森から新函館までの工事が確定した。予定では、一〇年と言われているが、早ければ七、八年で開通する予定である。新幹線が開通すれば経済効果は大であり、観光

にも大きな影響をもたらす。車両は、JR北海道で設計し、時速三〇〇kmで東京まで三時間四〇分を予定している。北海道国際航空（エアドウ）も三月より就航予定をしており、函館への観光客誘致に期待が持てる。函館の基幹産業は観光で



あり、昨年の外国からの観光客は一〇万人を超えており、今後も、観光に力を入れて行く。また、現在、観光につぐ産業として、水産海洋都市構想に取り組んでいる。今後とも、市政にご支援ご協力をお願ひします、道南会の益々のご発展をお祈りする、旨の挨拶。

続いて、函館国際観光コンベンション協会・沼崎会長より挨拶。函館は、まさに観光が基幹産業である。昨年は、五三〇万人の観光客があつた。大変喜ばしく皆様のご協力に感謝する。上期と下期に分けて見ると、比率は六五・三五になつている。近年若い人の企画により、クリスマスファンタジーを開催しているが、好評で、昨年は五十五万人の人数があつた。これからも継続して行きたい。また、一昨年から台湾便が倍増しており観光客の増加に寄与している。今後とも、道南会の皆様のご協力をお願いしますとともに、益々の発展を祈念する、旨述べる。

次に、北海道国際航空(株)滝澤社長が、挨拶。函館市は北海道では今、一番元気で、熱く燃えている街です。そんな函館に、念願なつて三月十八日より一日二往復便を就航する事となつた。今後とも皆さんに愛され、信頼されるエアドウを目指して頑張つて行きますのでよろしくお願ひします、道南会の益々の発展をご祈念する、旨述べる。

続いて、川守田副会長より会務、会計

報告が行われた。毎月行事を行って来たが、延べ三七〇人の参加者があった。

次に、今年役員改選の年であり、役員改選について田沼会長より改選案の提案、説明する。会長 田沼修二、副会長 川守田孝平、板垣寿見子、沼崎貞良（新任）、会計監査 瀬田松吉昭（新任）。副会長 中村隆俊、会計監査 丹野康男氏は退任。

以上、役員改選について、承認される。田沼会長より、新体制のもとで会の発展のため頑張っていく、旨力強く所信を述べられた。また、新しく顧問・常任幹事・幹事になられる方について紹介された。

新役員名簿を配布。なお、相馬正樹、早坂茂三氏は死去に伴い退任。

新役員・顧問 中村隆俊、丹野康男、福津達男。常任幹事 小林嘉則。幹事 菅原大作、山田克明。幹事 上田 航、古井勝春氏は退任。

以上で総会が終わり、中村隆俊顧問（前副会長）の発声で乾杯。道南会の益々の発展と、来会各位の健康を祈念して乾杯し、賀詞交換、懇親会に移る。

懇談の中、函館市企画部参事 近江茂樹氏より「函館市合併についての概要」について、説明される。

懇談の中、板垣副会長より新人紹介が行われ、各新人は、自己紹介し挨拶する。宴たけなわの中、福田裕子、島田瑞子幹事の進行で会場では恒例の福引抽選会が



始まる。盛り沢山の賞品に会場は大いに賑わいを増し、あちらこちらで、歓声が上がって悲喜こもこも顔！顔！顔！

歓談はなかなか尽きないが、懇親会の中閉めは新任の沼崎副会長の一本締めで、盛会のなか名残りを惜しみながら散会となる。

なお、会場で中越地震の義援金を募ったところ、六一、二一〇円の貴重な募金が集まりました。会員各位に感謝申し上げます。

また、懇親会には、函館市より日本酒が寄贈されました。

会場ロビーでは、(株)函館まんわさんによる、海産物の物産販売が行われ好評であった。

(葉袋 泰記)

新年総会・懇親会出席者

〔来賓〕

* 函館市長

井上博司

* 函館国際観光コンベンション協会

会長 沼崎弥太郎

* 北海道東京事務所

総務課長 三島 滋

* 函館市企画部参事

近江茂樹

* 函館市商工観光部次長

関谷 隆

* 北海道国際航空(株)

代表取締役 滝澤 進

東京支店長 猪瀬英雄

* サツポロビール(株)

営業推進部専門部長 手島孝雄

* サツポロ飲料(株)

和田昇三

〔参加者〕

朝倉敏夫、安達昌子、厚谷論、阿部喜

久雄、阿部正身、荒木道雄、池上謹之助、

市川一彦、板垣寿見子、上田航、内田み

つる、大橋浩子、落合隆一郎、大西孝司、

大水和彦、尾田アツ子、小山光、笠川雅

彦、加藤信利、金柿陽子、金子公彦、川

口嵩子、川小ヒナ子、川守田孝平、川守

田礼子、菊池紀邦、木谷勝子、木戸正文、

小坂鉄雄、郷内繁、小島幸子、小林寅雄、

小林嘉則、小森良彦、小山育子、小山慶

子、斉藤彰、斉藤勝美、齋藤貞子、酒井

哲美、坂本保子、佐藤成子、佐藤元昭、

澤株正始、澤株尚子、島田瑞子、菅愛子、

菅原大作、菅原靖、杉田博子、須藤珠實、

瀬田松吉昭、高橋大、竹中裕行、田代沙

智子、田沼修二、田村治雄、田村保子、

田村良人、田村房江、田村仁、塚本毅、

土橋道子、敦澤義彦、弦巻鋼男、鶴本支

郎、寺田耕治、照井陽子、時田厚子、豊

田利雄、土井真一、長島康、中村崇、中

村隆俊、中山泰壽、納代鉄也、波間省三、

成田きよえ、新山春一、沼崎貞良、沼崎

茂子、根来美和子、野崎方子、英慶子、

花巻省三、原口久江、原ヒエ子、比嘉裕

子、平野進一、福島紀、福田裕子、福津

達男、富士昭一、古井勝春、古里健三、

堀内洋子、本間作喜、本間和吉、松浦和

彌、松永幹男、松前孝廣、三浦健藏、三

浦幸恵、三浦輝夫、三国比左男、三橋淑

子、葉袋泰、三村寿雄、森岡偉行、山木

和子、山下弘治、山田克明、山田隆、山

名昭二、吉田恭子、吉田修、吉田孝、若

林郁雄、若林英毅、渡辺宏司。

会報の通し番号について

会報は創立当初には、毎年一回発行してきたが、途中不定期になり、通し番号を記載せず「新年号」「夏季号」のみ記載してきた。現在は年二回定期発行しているので整理の利便を考え、今号から通し番号を記載することとした。

同窓会の活動状況

◎函館東高等学校関東地区青雲同窓会
(新山春一会長)

五月二十八日 新高輪プリンスホテル
国際館パミールで開催。

◎大森小学校同窓会 (瀬田松吉昭会長)

五月二十九日 ニュートーキョー・ロ
チエスターで開催。

◎柏野小学校同窓会 (池上謹之助会長)

六月四日 ホテルグランドパレスで開
催。

◎東川小学校同窓会 (渡邊宏司会長)

六月四日 飯野ビル九階・レストラン
キャッスルで開催。

◎函館高専同窓会 (にいばり会)

(前川真幸会長)
六月十八日 アジュール竹芝で開催。

◎常盤小学校同窓会 (南谷光一会長)

七月二日 銀座アスター「日本橋寶館」
で開催。

◎北海道教育大学附属小・中学校同窓会
(延原昌樹会長)

七月二日 新宿三井クラブで開催。

◎東京函商同窓会

(函館商業高校・葉袋泰会長)
七月十日 品川プリンスホテル新館「函
館」で開催。

◎白楊ヶ丘同窓会東京支部

(函館中部高等学校・金子公彦支部長)
九月十一日 ホテルフロラシオン青

山・東京青山会館で開催予定。

◎函館西高等学校つじヶ丘同窓会東京
支部
(新谷義克会長)

十月八日 霞ヶ関ビル・東京會館で開
催予定。

「東京ふるさと七飯会」総会

平成十七年の「東京ふるさと七飯会」
の総会は三月五日(日)正午、上野のふ
くしま会館で開催された。五十七名の会
員中十五名が出席。郷里から高橋伸之收
入役、が出席され郷里の現況等を報告し
た。特に、鹿部町との合併問題について
は、不調に終わった経緯等について詳細
報告があった。北海道道南会から田沼修
二会長が出席され会員との交流をはから
れた。
役員改選については、全員留任で承認
された。会長 葉袋 泰、代表幹事 山下
弘治。
藤谷末松顧問の乾杯により懇談に移る。
地酒の「赤松街道」で喉を潤し、和気あ
いあいの語らいが続いた。

新入会員紹介

()内は出身小学校
大橋 浩子(新 川) 千葉幸子さんの紹介
落合隆一郎(上 磯) 土井真一さんの紹介
金柿 陽子(柏 野) ゴルフ大会優勝者
高橋 大(弥 生) 荒木道雄さんの紹介
塚本 毅(函館商業) 帝国ホテル
土井 真一(大 森) 大谷高校同窓会会長
波間 省三(万年橋) 田村保雄さんの紹介
平野 進一(札 荊) 斎藤貞子さんの紹介
三浦 輝夫(石 別)
森岡 偉行(七 重)
吉田 修(江 差)
函館ラサール高校東京同窓会

平成16年度収支報告書

自16年 1月 1日至16年12月31日
北海道道南会

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越高	691,466	行事費	1,672,447
年会費	952,000	会議費	50,270
行事会費	1,622,500	印刷費	187,742
寄付金	40,000	通信費	207,210
雑収入	23,100	旅費交通費	91,780
受取利息	28	消耗品費	45,213
		雑費	71,367
		支払手数料	10,910
		次期繰越高	992,155
合計	3,329,094	合計	3,329,094

次期繰越高内訳	現金	21,781
	預金	788,684
	振替貯金	181,690
	合計	992,155

道南会行事報告

☆「新年総会」

一月二十九日(土) 午後一時開会
プレスセンターホール(詳細別掲)

☆「田浦梅林」観梅会

二月二十二日(火) 午前十一時

三浦半島最大の梅林で、約二千七百本の梅が咲くことで有名。丘の上の梅林を目指して息を切らしながらおおよそ三十分の坂道を登る。満開にはまだ間があったものの、二月とは思えない好天気で、対岸の房総半島が東京湾越しにはっきりと見える芝生で飲むビールの味は格別であった。

参加者二十九名



☆「神代植物公園」観桜会

四月九日(土) 正午

当初四月二日に予定していたが、桜の開花が遅れていたため、この日に変更した。当日は、初夏を思わせるような暖かさで絶好のお花見日和となり、ガードマンが交通整理に当たるとの人手だった。多少風が強かったものの、時折舞い散る桜吹雪の中、整備された芝生の上で花見酒を酌み交わし、時の経つのも忘れ歓談した。

参加者二十一名

☆「清澄庭園」散策

五月二十五日(水) 正午

明治の代表的「回遊式林泉庭園」を訪ねた。庭園の中心を占める大きな池を巡って樹木や石で数奇を凝らして作られた庭園を觀賞した後、鮮やかな新緑に囲まれた芝生の上で昼食としばし歓談。解散後、有志は近くの江戸東京博物館や富岡八幡宮に向かった。

参加者二十六名

☆「水元公園」散策

六月二十三日(木) 午前十一時

都内で唯一残る水郷地帯・水元公園を訪ね、都内最大の菖蒲田に咲き誇る一万四千株、二十万本といわれる花菖蒲を鑑賞した。梅雨の合間の蒸し暑さに閉口しながらも、菖蒲田傍の芝生の上で、間近に見える花菖蒲を愛でながらの昼食としばしの歓談。帰路は、公園近くの業平山南蔵院境内の「しばられ地蔵」を見学しながら、最寄り駅のJR金町まで。駅前

の喫茶店で暫時歓談して解散した。なお、この日は、朝方まで雨が残り、その後の降水確率も高かったため、中止を考えていたが、所定の集合時に参加予定の大部分が参集。当初の予定通り実施した。

参加者十九名

☆第二回道南会ゴルフコンペ

七月七日(木)

千葉県印西市の習志野カントリークラブで、四組十六人が参加して、昨年の第



一回に引き続いてゴルフコンペが行われた。この日は、梅雨の晴れ間の好天に恵まれたものの気温、湿度とも高く、寒さに強い(?)北海道生まれにとってはや辛いコンディションのもと、終日和やかな雰囲気の中でプレーが行われた。

訃報

謹んでご冥福を
お祈り申し上げます

相馬正樹様

平成十六年十二月十八日逝去

小泉文男様

平成十七年二月二十二日逝去

渡邊忠男様

平成十七年四月三日逝去

若杉康孝様

平成十七年四月二十五日逝去

山田道子様(元顧問)

平成十七年五月二十九日逝去

会報「道南」十七年夏季号・通巻42号

発行 平成十七年七月二十五日

発行所 北海道道南会事務局

横浜市鶴見区生麦四一九一

三三八〇三 川守田 氣付

印刷所 (株)ソーラン社

中央区日本橋小伝馬町十六一八